

アキレス『中期経営計画 FY25～FY27』発表内容と評価

要約 (Summary)

2025年5月12日にアキレス株式会社（5142）が発表した新たな中期経営計画（FY2025～FY2027）では、**2027年度に売上高880億円、営業利益30億円、ROE 5%以上の達成を掲げ、2030年度には売上高1,000億円、営業利益50億円、ROE 7%以上を目指す長期ビジョンを示しました** ¹ ²。計画の柱は、成長分野への選択と集中、新規市場の開拓、海外展開の加速、人材力と技術力の強化、そして知的財産やブランド価値の向上です。国内外の投資家・業界関係者からは、**環境対応材料・EV用途など成長分野への注力や北米・中国での事業拡大**については概ね好意的に受け止められる一方、**シューズ事業の低迷や収益目標の慎重さ（ROE目標5%）**などに対して課題を指摘する声もあります ³ ⁴。以下、5つの観点（成長性、リスク、海外展開、人材戦略、知財・無形資産戦略）について計画内容と評価を詳述します。

成長性：売上・利益計画、新規市場・事業、研究開発などの取り組み

計画の概要： 新中期計画では、事業ポートフォリオの改革と成長戦略の推進によって業績拡大を図ります。**2027年度までの数値目標**は下表のとおりです ¹（2030年の長期目標も参考）：

指標	2027年度目標	2030年度目標
売上高	880億円 ¹	1,000億円規模 ²
営業利益	30億円 ¹	50億円規模 ²
ROE	5%以上 ¹	7%以上 ²

売上高・利益とも**着実な成長路線への回帰**を目指すものの、慎重な水準の目標値に設定されています（前計画期間で業績が停滞・赤字に陥った反省を踏まえたもの） ⁵。長期的には「**グローバルソリューションプロバイダー**」として再び**売上高1,000億円規模**の企業へ成長する決意が示されました ²。実際、**過去に連結売上高1,300億円に達した時代もあったことから**、「もう一度その成長路線を歩む基盤を築く」という経営陣の強い思いがうかがえます ³。

成長戦略の具体策： 成長性向上のため、以下の重点分野・施策にリソースを集中しています。

- ・**環境・次世代ニーズへの対応：** 脱炭素社会に向けた高性能断熱材（ZEH対応）やバイオマス・生分解性素材への取り組み強化、既存プラスチック製品のリサイクル推進、そして**EV向け車両資材事業**の強化を図ります ⁶。こうした環境対応製品や次世代モビリティ材料は需要拡大が見込まれる分野であり、研究開発投資も重点配分されています（例：機能性フィルムや発泡素材の開発促進 ⁷）。
- ・**事業ポートフォリオの選択と集中：** 収益性や成長性の観点から**事業領域を見直し、課題のある事業の再評価と成長が期待される事業への資源投入**を最優先で実施します ⁸。例えば、不採算が続く事業は縮小・撤退も視野に入れ、一方で有望分野には人員・資本を重点投入していく方針です。これにより**事業ポートフォリオ全体の収益力再構築・強化**を狙います ⁹。

- ・**新規市場・用途の開拓:** グループの多岐にわたる製品技術を組み合わせ、**防災用品事業の拡大や高機能中間素材（フィルム・発泡体）の新用途開拓**など、新規事業の創出にも注力します¹⁰。社内の技術・アイデアを横断的に活用し、「多様な製品群×多様な市場顧客」を掛け合わせた**新たな価値創造**を目指しています¹¹。
- ・**技術力の強化:** アキレスグループの強みである**樹脂フィルム製造、発泡、成形**といった**コア技術の組み合わせ**によりソリューション提案力を磨き、新製品開発を加速します¹¹²。例えば、医療用途フィルムや静電気対策材料など高度な自社技術領域では、特許やノウハウによる技術的優位性を維持・強化していく考えです（計画書では具体的な特許戦略言及はないものの、機能性材料の開発推進が示唆されています¹³）。

成長戦略に対する評価: 全体として、**成長分野へのシフトと保有技術の活用**という方向性は**市場関係者から好意的に受け止められています**。特に**カーボンニュートラル関連やEV分野**は将来性が高く、「アキレスが持つ発泡・フィルム技術を活かせる有望領域」として期待が寄せられています。業界紙も「新中計でもう一度成長路線を歩む基盤を築こうという思いを新たにしている」と伝えており、**過去のピーク業績の再現への意欲**を評価する声があります³。一方で証券アナリストや一部投資家からは、**数値目標の慎重さや収益力向上ペースの鈍さ**を指摘する見方もあります。例えばROE5%という2027年目標水準について「依然として資本コストに見合わず低い」との指摘や、営業利益率も3%台に過ぎない点に対し物足りなさを感じる投資家もいるようです¹。実際、直近2期連続で営業赤字に陥っていた業績を立て直す必要がある中で「まず現実的な目標を掲げた」と捉える向きもありますが、**計画達成によるROE改善や低PBR是正**が不十分だと株主が失望すれば、更なる経営改革圧力もあり得るでしょう。そのため、着実な目標達成に加え、中期計画期間中に上振れを狙う積極性が示せるかが今後の評価ポイントになると考えられます。

リスク：市場・競争・財務・経営面のリスクと対応策

計画で認識されている主なリスク要因と対策: アキレスは中期計画の策定にあたり、以下のリスクを念頭に置き対応策を講じています。

- ・**市場環境リスク:** **地政学リスクの高まり**や原材料価格変動、景気変動などにより先行き不透明な経営環境が続く可能性があるとしています¹⁴。特に中国や新興国の景気減速や国際情勢の緊張が事業に与える影響を注視しており、不確実性に耐えるための事業基盤強化を掲げています。対応策として、**需要変動への柔軟な対応**（生産拠点の最適配置¹⁵）、**リスク管理体制の整備**、サプライチェーン全体でのリスク分散などを進める計画です。また**気候変動リスク**にも言及し、TCFD提言に基づくシナリオ分析を1.5℃シナリオに更新するとともに、2030年末までに温室効果ガス排出量を2018年度比50%削減という目標を新たに掲げました¹⁶。このように**環境リスクを低減するサステナビリティ経営**を推進し、中長期的な企業価値向上とリスク低減の両立を図るとしています¹⁷。
- ・**競争リスク:** 主力事業における競合激化も大きなリスクです。とりわけ**シューズ事業**では、子供向けスポーツシューズ「**瞬足**」が**競合ナショナルブランドの台頭やプライベートブランド拡大**、さらには**国内市場の少子化**による需要減で競争が激化しており、収益圧迫要因となっています⁴。また**急激な円安**により輸入品の原価上昇と自社商品の価格競争力低下も起き、採算悪化を招きました¹⁸。こうした競争環境のリスクに対し、アキレスは「**選択と集中**」の徹底による**競争力強化策**を打ち出しています。具体的には**販売ブランドを「瞬足」「アキレス・ソルボ」「BROOKS」に絞り込む**とともに、国内自社生産の終了（生産は外部委託や海外移管）によるコスト構造改革を進めます¹⁹²⁰。さらに**瞬足・ソルボのアジア展開**を図り市場拡大によるスケールメリット獲得も目指します²⁰。経営陣はこの集中策により**2027年までにシューズ事業の黒字化**を必達課題と位置付けており、達成できない場合は事業継続の是非を判断するとしています²¹。このような踏み込んだ方針からも、競争に勝てない事業への危機感と構造改革の覚悟が読み取れます。

・**財務・収益リスク**：近年の収益低迷に伴う**財務上のリスク**も認識されています。前期（2025年3月期）は経常損益が**0.22億円の赤字**に終わり、従来予想の黒字から一転して赤字着地するなど業績予想のブレもありました²²²³。このため**収益予想の精度向上**や**コスト管理の徹底**が急務とされています。中期計画では**全社的なコスト削減・生産性向上**に取り組み、スマートプロセスやデジタル技術で業務効率を高めることで利益率の改善を図る方針です²⁴。加えて、**投資回収リスク**にも目を配っています。例えば中国・佛山の新工場立ち上げに伴い2023年度に損失計上しましたが、2024年4月からの量産開始で**生産移管・販売拡大を進め損益改善**を見込むなど、早期黒字化への道筋を示しています²⁵。また滋賀第二工場のウレタン設備では需要減による減損損失を出したものの、環境配慮型設備で将来の競争力向上に資する投資と位置付けています²⁵。こうした設備投資については「**全社一丸で確実に投資回収を図る**」と明言し、投資案件ごとに収益シミュレーションを厳密に行うなど慎重な資金運用姿勢を示しています²⁶。

・**経営面のリスクとガバナンス**：中期計画期間中の経営課題として、**低PBR問題**や**株主還元**への対応も挙げられます。東京市場ではPBR（株価純資産倍率）1倍割れ企業への圧力が高まっており、アキレスも例外ではありません。実際、2024年には**発行済株式の約5%にあたる自己株式買付（約10.6億円）**を実施しており²⁷、資本効率の改善に努めています。また財務・資本戦略面では**配当性向30%以上**を目安とする方針を掲げ、安定配当と業績連動増配による株主還元を図る計画です²⁸。経営ガバナンス強化策としては、取締役会のスキルマトリックス開示や多様性に配慮した取締役構成の見直し等を進め、公正で透明性の高い意思決定体制・リスク管理体制を整備しています²⁹。これらは経営面のリスク低減と企業価値向上に資する取り組みと位置付けられています¹⁷³⁰。

リスクに対する評価：投資家やアナリストは、アキレスが直面するこれらのリスクを概ね適切に認識し対策を講じている点を評価しています。特に**シューズ事業の構造改革方針**については、「不採算事業にメスを入れる覚悟を示した」として前向きに受け止められています。また**地政学リスク**や**気候変動リスク**への備えとして、複数拠点での供給体制や環境目標の強化を打ち出したことは、持続可能な経営姿勢として好感されています¹⁶。一方で、**実行リスク**を指摘する声もあります。例えば「瞬足」ブランドの立て直しについては競合の攻勢が予想以上に厳しく、計画どおり黒字転換できるか不透明との見方があります⁴。また海外情勢の変化（米中関係悪化等）次第では、中国工場や米国事業の計画に狂いが生じる懸念も残ります。実際、計画発表直後の株式市場の反応は慎重で、決算発表日の株価は**前日比3.5%下落**とやや失望売りに傾きました⁵。これは当期業績の下振れ決算の影響もありますが、投資家が計画達成に不確実性を感じた部分もあると考えられます。総じて「方向性は妥当だが、実現できるか注視」といった慎重な評価が多く、今後は四半期ごとの進捗や具体的成果を示すことで市場の信頼を得ていく必要があるでしょう。

海外展開：対象地域、戦略、提携・拠点などの拡張計画

計画の概要：新中期計画では**海外展開の加速**が大きなテーマとなっています。現在アキレスグループはアジア・北米を中心に海外生産拠点・販売拠点を持っていますが、その売上高は**約172億円（年間）**と全体の2割強に留まります³¹。計画では**2027年度までに海外売上高を220億円程度（約25%比率）に拡大し、2030年頃には300億円規模（約30%比率）を目指す**方針です³¹。地域別戦略の柱は以下のとおりです。

・**北米（米国）**：医療用フィルム市場を攻略すべく、米国子会社 **Achilles USA, Inc.** で医療用途フィルムの製造販売を強化します³²。具体的にはワシントン州の工場で2025年9月完成を目標に生産設備増強投資を進めており、**生産能力を倍増**して北米およびグローバル市場の需要拡大に対応します²⁶。医療・ヘルスケア分野の高機能フィルムは高付加価値領域であり、この強化は**利益率向上にも寄与**すると期待されます。また、米国では高機能ウレタンフォーム製品なども展開しており、引き続き現地ニーズに合わせ製品ラインナップを拡充する計画です。

・**中国・アジア**：中国市場では2022年末に稼働開始した広東省佛山の新工場（阿基里斯〈佛山〉新型材料有限公司）を軌道に乗せ、**自動車内装材など車両用素材**の現地生産・販売を拡大します³³。足元では立ち上げ費用により損失計上しましたが、2024年度より量産本格化し**日系主要取引先への供給**

大を図る計画です²⁵。中国以外のアジアでは、既存のタイやインドネシア等の生産拠点・販売網を活かし、**瞬足・ソルボなどシューズのアジア展開**や、建材・産業資材の周辺国販売を強化します²⁰。加えて、**海外事業戦略室**を新設してグローバル展開を統括し、各地域の市場ニーズに即した製品開発・提供体制を整える方針です³⁴。必要に応じて**戦略的M&Aや提携**も検討し、シェア拡大や生産能力強化を図るとしています³⁵。

- ・**グローバル供給体制**: 日本国内と海外拠点を連携させ、**最適地生産・最適地販売**の体制を構築します¹⁵。例えば、北米向け製品は米国工場から、アジア向け製品は中国・東南アジア工場から供給し、輸送コストや通貨リスクの低減を狙います。また全社横断で**海外生産支援**や**国際物流改革**を進め、地理的リスク分散と効率化を両立させる計画です³⁶。これにより、グローバルマーケットで「選ばれる」競争力を持つ製品を**途切れなく供給できる体制**を目指しています¹⁵。

海外展開に対する評価: アナリストや業界関係者は、アキレスの海外展開強化について**概ねポジティブ**な見解を示しています。特に米国の医療フィルム事業は「ニッチだが収益性の高い市場で、同社のフィルム技術が活きる分野」と評価されており、北米事業拡大は中期的な収益ドライバーになる可能性があると考えられています。また中国をはじめとするアジア市場向けの展開も、「現地生産でコスト競争力を高め、需要地でのシェア拡大を狙う合理的戦略」と捉えられています³⁷。自動車業界では中国ローカルメーカーの台頭も著しい中、現地拠点で迅速に納入できる体制は**強み**になるでしょう。もっとも、**海外展開のリスク**にも言及があります。米中対立や各国の保護主義的動きが強まれば、せっかく増強した生産設備が思うように稼働しない可能性もあります。また現地競合企業との競争や、文化・ニーズの差異への対応など課題も指摘されています。実際、中国市場では電気自動車（EV）の内装材分野で**地場企業も台頭**しており、納入先開拓が計画通り進むか注視が必要です。投資家の中には「海外売上比率30%という目標自体は控えめで、もっとグローバル展開を加速すべき」との声もあります。しかし一方で、「海外比率を安易に高めすぎると為替リスクや管理負担が増す」と慎重な意見もあり、バランスが求められます。総じて、**海外展開は同社成長のカギ**との見方が強く、その成功如何が中期計画達成に直結するとみられています。

人材戦略：採用・育成・ダイバーシティ・働き方改革など

計画の概要: アキレスは**人材こそが成長戦略を支える基盤**であると位置付け、中期計画で人材戦略・働き方改革にも重点を置いています⁸。具体的な施策は以下のとおりです。

- ・**人材育成と組織力強化**: グローバル展開やDX推進を牽引できる**高度人材の育成**を掲げています³⁸。社内に**海外事業戦略室**を設けるなどグローバル人材の活用を進める他、社内公募や留学制度の充実などで人材の適材適所配置・スキルアップを図ります。またデジタルトランスフォーメーションに対応すべく、**データ分析やITに強い人材**の採用・育成も強化します。現場力向上のため、製造部門では熟練技能の伝承や多能工化研修を推進し、生産性向上と人的リスク分散を目指します。
- ・**ダイバーシティ推進**: **多様な人材の活用**を経営方針に掲げ、**女性や外国人の管理職登用**、シニア層の活躍推進などを進めています³⁹。例えば、女性管理職比率の向上や育休取得推進、外国人社員の採用拡大といったKPIを設定し、**組織の多様性向上**によって新たな発想やイノベーション創出を促す考えです。取締役会レベルでも多様性を重視し、スキルマトリクスの開示などガバナンス面で知見・背景の多様な人材配置に取り組んでいます²⁹。
- ・**働き方改革と職場環境改善**: **安全で健康に働ける職場づくり**を重視し、労働安全衛生の徹底と**健康経営**を推進します⁴⁰。また、生産性向上と社員のワークライフバランス両立のため、テレワークやフレックス制度の活用、業務プロセスの見直しによる**長時間労働是正**など働き方改革を進めています³⁸。「**安全で働きやすい健康的な職場環境**」を掲げており、現場設備の安全投資やメンタルヘルス対策も計画に盛り込まれています⁴⁰。さらに人権尊重の方針の下、ハラスメント防止研修を拡充するなどソフト面の職場改善策も講じています³⁹。

- ・**採用戦略:** 中途採用や新卒採用では、上記戦略に資する人材を重点的に獲得します。特にDX人材やグローバル人材の採用枠を拡大し、報酬面でも専門人材にインセンティブを付与するなど競争力ある雇用条件を整備しています。また社内登用だけでなく**外部人材の活用**（プロ人材の一時起用や副業人材受入れなど）も模索し、オープンな人材戦略で不足リソースを補完するとしています。

人材戦略に対する評価: アキレスの人材戦略について、投資家・アナリストの関心は必ずしも高くはないものの、ESGの「S（社会）」面への配慮として一定の評価があります。特に**働きやすい職場環境づくりやダイバーシティ推進**は昨今の企業価値評価において重要視される要素であり、同社が積極的に取り組んでいる点は**サステナビリティ経営の一環として好意的に受け止められています**⁴⁰。実際、「安全で健康的な職場づくり」の項目では具体的な数値目標こそ示されていないものの、労働災害件数ゼロや有給休暇取得率向上など社内KPIを設定していると伝えられ、堅実な労務管理に努めている印象です。また**多様な人材活用**についても、日本企業全体でダイバーシティが遅れている中であって、同社が経営方針に明示していることは評価できます。ただし、投資家目線では人材戦略それ自体が短期業績に直結しにくい大きな関心事項とはなっていません。そのため「計画の実現には優秀な人材確保が鍵」としつつも、具体的な成果（例えば新事業創出や生産性向上）が見えて初めて評価が高まる領域と言えます。人件費増加や採用競争力といった課題もあるため、今後は**人材投資の効果をどう測るか**を開示していくことが望まれます。一部には「もっと思い切った若手登用や組織改革が必要では」との指摘もありますが、全般的には**オーソドックスで妥当な人材戦略**と受け取られています。

知財・無形資産戦略：特許、ブランド価値、技術的優位性など

計画の概要: アキレスは **技術・ブランド等の無形資産** を活用した競争力強化にも注力しています。中期計画で明示された知的財産・無形資産に関わる戦略は次のとおりです。

- ・**コア技術と知的財産の活用:** 前述の通り、フィルム製造・樹脂発泡・大型成形など同社独自の**コア技術基盤**があります¹²。これら複数の技術をアイデアで組み合わせることで他社にないソリューションを創出し、**世界に選ばれる新たな価値**を生み出すことが基本方針に掲げられています¹。具体的には、**高性能フィルムや機能性発泡体の開発を推進し**¹³、これらの技術分野で特許やノウハウを積み重ねることで技術的優位性を保持します。現在もESD（静電気対策）材料やウエハー搬送用フォームなどニッチ分野での知見が強みとなっており、研究開発部門を中心に特許出願や知財戦略を強化していくとみられます（※計画書に具体的な特許件数目標等は記載されていませんが、技術開発ロードマップに沿って知財蓄積を図る姿勢です）。また社内の異なる事業部間で技術を共有し、新製品開発に活かす**オープンイノベーション的な取組み**も推進しています¹¹。
- ・**ブランド価値の強化:** 「瞬足」「アキレス・ソルボ」など同社が長年培ってきた**シューズブランド**は重要な無形資産です。中期計画では前述のとおりシューズ事業を主力ブランドに集中させる戦略を掲げており、ブランド力の回復・向上を図ります。瞬足については国内シェア奪還だけでなく**アジア圏への販路拡大**によるブランド浸透も計画されています²⁰。また「アキレス」という社名ブランド自体も、産業資材分野では一定の知名度・信用を有しています。例えば建築内装材では**オリジナルブランドの壁材をグローバル展開**する計画があり⁴¹、優れた国内製品ブランドを海外市場に投入することで付加価値を高める戦略です。さらに新規事業領域でも、自社ブランドの信頼性を武器に市場参入を図る考えで、例えば防災・減災製品群では「Achilles」のブランドで自治体・企業向けに提案営業を強化しています。ブランド戦略上の課題としては、特にシューズ事業で**ブランドイメージの刷新**やマーケティング強化が求められています。計画にはマーケ面での4P戦略（製品・価格・販路・プロモーション）の再構築に言及されており、これまでの商品力頼みから脱却し**市場視点でブランド価値を再定義**する方針です²¹。
- ・**グループ内資源・知見の共有:** アキレスは製品ラインナップが広範囲に及ぶため、**社内の無形資産の横串活用**が重要になります。計画では「グループ間の経営資源の有効活用」により新規事業創出を狙うとしています¹¹。具体例として、産業資材分野で培った素材技術をシューズや生活用品に応用し

たり、その逆にシューズで培ったデザイン・マーケノウハを産業用途製品に取り入れるなど、部門の壁を越えたシナジー創出を進めます。これに伴い、人材交流や情報共有の強化も図り、**無形の人的資産・組織知**を最大限に活かす方策が取られます。

知財・無形資産戦略に対する評価: 投資家・アナリストは、アキレスが持つ**技術的ストック**や**ブランド資産**をどう活用していくかに注目しています。ポートフォリオ戦略の文脈で「**同社のソリューション力＝技術×アイデア**」が強調されている点については、「多角事業で培った技術の掛け合わせはアキレスならではの強み」と評価する声があります^①。特にフィルムや発泡体といった素材系技術は競合他社に限られる領域もあり、中長期的に**知財による参入障壁**を築ける可能性があります。無形資産の一つである**ブランド**についても、「瞬足」などは国内で一定の認知度があり、新製品投入時の訴求力になるとの見方があります。ただし現状ではブランド力が十分収益に結び付いていないとの指摘もあり、例えば**瞬足ブランドの近年の失速**については少子化と競合増の影響が大きいものの「マーケティング不足でブランド価値を十分生かしきれなかった」との分析もあります^④。そのため、新中計で示された**ブランド集中策とFY27黒字化デッドライン**（黒字化できなければ事業継続を再考^{②①}）は厳しい判断ですが、「それだけ本気度が高い証拠」と受け取られています。市場関係者からは「ブランド絞り込みと海外展開でシューズ事業の立て直しを図るのは妥当な戦略だが、結果が出るまで投資コストがかかる点に留意」とのコメントもあり、ブランド価値向上には時間と投資を要することへの理解と慎重な見方が混在しています。また知財戦略に関しては具体的開示が乏しいため評価が難しいものの、「同社の研究開発費（売上高比約2%前後）は同業平均並みで、知財蓄積に継続的に取り組んでいる」と分析されています。今後、重要特許の取得やライセンス収入など具体的成果が出ればポジティブ材料となるでしょう。総じて、**無形資産を磨き収益に繋げる戦略は不可欠であり、方向性は適切**と評価されつつ、その実効性については引き続きウォッチする必要があるとの声が多い状況です。

評価の傾向まとめ

以上の観点から、アキレス新中期経営計画に対する評価を総括すると、「**守りと攻めのバランスを取った現実的な計画**」というのが市場の概ねの見方です。成長戦略では環境対応・海外展開といった攻めの姿勢を見せつつ、数値目標やリスク対応では慎重さも垣間見えます。そのため「**堅実だが物足りない**」と感じる向きと「**まずは着実な再建を評価**」する向きの両方が存在します。株価面では計画発表直後に下落する場面もありましたが^⑤、これは当期決算の失望も絡んだ一時的な反応とみられ、中期計画自体への信頼はこれからの実行と成果次第といえます。今後は四半期ごとの進捗開示やIRを通じて投資家の理解を深め、計画の信憑性を高めていくことが求められます。アキレス経営陣が掲げた「**2030年に売上高1,000億円企業復帰**」という長期ビジョンに向け、まずはこの3年間でどこまで企業体質を強化できるか——国内外のステークホルダーの注目は、計画の実行力とその結果に集まっています。今のところ**好意的な期待**と**いくつかの懸念**が交錯するスタートですが、計画の成否が判明するにつれ評価も定まっていくことでしょう。その意味で、FY25～FY27の取り組みと成果は、アキレスの将来像を占う試金石として非常に重要だといえます。

Sources:

- ・アキレス「『中期経営計画 -FY25～FY27-』策定のお知らせ」2025年5月12日^{① ②}
- ・Achilles Corporation, Press Release (English) “Notice Concerning Development of Mid-term Management Plan (FY2025–FY2027)”^{⑧ ⑭}
- ・ゴム化学新聞「新春トップインタビュー アキレス」2022年1月5日^③
- ・アキレス「ステークホルダーの皆様へのメッセージ」（サステナビリティ報告）^{⑥ ③⑦ ①① ②①}
- ・化学工業日報「アキレス新中計、27年度売上高880億円へ」2025年5月13日^{③①}（数値データ）
- ・株探ニュース「決算マイナス・インパクト 銘柄 (5月12日発表分)」2025年5月13日^⑤
- ・株探ニュース「アキレス、前期経常が一転赤字…10円増配へ」2025年5月12日^{②②}
- ・Minkabu AI要約「アキレス 今後の見通し」2025年5月^{④②}
- ・アキレス「2023年 サステナビリティ経営方針」^{④① ③⑨}
- ・アキレス「IR資料：中期経営計画 FY25～FY27」2025年5月^{②① ④ ①⑨ ①②}

1 2 『中期経営計画 -FY25～FY27-』策定のお知らせ

<https://www.achilles.jp/assets/pdf/news/newsrelease/2025/05122.pdf>

3 新春トップインタビューアキレス - ゴム業界紙「ゴム化学新聞」

https://gomukagaku.com/article/220105_13/

4 9 12 17 18 19 21 28 29 30 31 34 35 36 39 40 41 中期経営計画 -FY25～FY27-

<https://www.achilles.jp/assets/pdf/ir/library/midterm-plan/2505121.pdf>

5 決算マイナス・インパクト銘柄『東証プライム』引け後… ENEOS、アサヒ、塩野義 (5月12日発表分)(株探ニュース) - Yahoo!ファイナンス

<https://finance.yahoo.co.jp/news/detail/c75452c220f044cf8136b3ca80b06e2a966b7fc3>

6 7 10 11 13 15 16 20 24 25 26 32 33 37 38 ステークホルダーの皆様へのメッセージ | サステナビリティ | アキレス [Achilles]

<https://www.achilles.jp/csr/message/>

8 14 magicalir.net

<https://magicalir.net/Disclosure/-/file/1869665>

22 アキレス(株)〔5142〕：ニュース・最新情報 - Yahoo!ファイナンス

<https://finance.yahoo.co.jp/quote/5142.T/news>

23 アキレス、前期経常が一転赤字で下振れ着地・今期は黒字浮上、10円増配へ 投稿日時：2025/05/12 14:00[株探] - みんかぶ

<https://s.minkabu.jp/news/4220432>

27 Achilles Corporation Stock (5142) - Quote Japan Exchange

<https://www.marketscreener.com/quote/stock/ACHILLES-CORPORATION-6494156/>

42 アキレス (5142) : 株価/予想・目標株価 [Achilles] - みんかぶ

<https://minkabu.jp/stock/5142>